

暑かった夏を終わり9月をむかえました。

これから屋外での運動会の練習を通して、子どもたちは季節の変わりゆくようすを目にするでしょう。

運動会の練習も大切な体験です。この体験と子どもたちの心とからだを育ててくれます。おやしみないよう体調を整えてあげましょう。

■来週には秋の遠足が待っておりますが、都合により日程が変更し学年があります。

年少組さんは円山動物園の遊園地で楽しあそびできます。

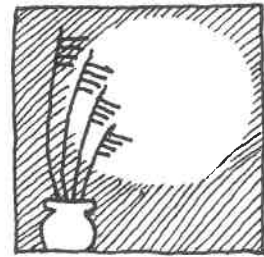
年中組さんはサトランドへ行ってバターを作る経験をしてきます。

年長組さんは運動会の後にクッキーづくりに行きます。

■子どもたちの夢が広がるハロウインのパーティを10月に予定しております。

決して豪華さを競うものではありません。

衣装はお家から来て、そのままいつもの園生活も過ごします。



バスの中も、幼稚園の中も夢いっぱい、楽しさいっぱいになります♡



(心の育ちシリーズ)

よみきかせの愛

ある父親が、急に名古屋から長崎へ単身赴任することになりました。辞令が出てから出発まで、わずか5日間しかありません。妻の負担と気になりますが、三歳の子(男)を残していくことがなほ心配です。

そこで考えた父親は、子どもに二冊の絵本を買ってきました。「ちかたろう」と「スイミー」です。

それを出発までの毎夜、読んで聞かせたのです。三歳の子には「まだむずかしいかな」と思ったけれど、子どもは眼をこらして聞いていました。

そして父親を駅まで送る時も、二冊の本をしっかりと月匈にかかえていました。

それから母と子の二人だけの生活となりました。ところがこの子は、つまらなくなったり淋しくなったりすると「これ読んで」と二冊の本を持ってくるのです。ほかに絵本が沢山あるのに、この二冊。母親は月匈が熱くなり「ちね、お父さんの本を読んで元気になるからね」と、子どもを膝の上に乗せ(父親がやったのと同じように)読んであげました。子どもは元気になり、子どもが元気になったから母親も元気になりました。

テレビゲームやパソコンが激しく流行している今であれば、この「よみきかせ」の値打ちをみつめ、それを重視する親になってほしいと思います。

上手、下手は関係ない。場所や時間を都合の良い時でいいし、乳幼児期が最適でしょう。

親子の絆を深めるのに役立ちます。このように言っているのは教育者 坂本光男先生です。

本の好きな子ども、読書が好きな子どもになります。
その子にとっては、これからの育ちへの大きな支えになります。